

会員が6テーマ発表

県コンクリート診断士会 技術交流会

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は25日、福井市松本の

県職員会館で第2回技術交流会を開き、会員が取

り組んだコンクリート診

断事例について意見交換

した。

当日は会員約40人が

参加。コンクリート診断

士の資格登録を更新（4

年毎）する際に提出が義

務づけられているレポー

トを中心に今回は5人の

会員に発表してもらった。

テーマは①河川工作

物に多数発生したひび割

れの調査、診断と補修方

法の提案（三谷生コン敦

賀）②新築建築物に発生

したクラックの調査（エ

ルディ）③道路橋床版の

変状調査と耐力照査

（サンワコン）④現場打

ちボックスカルパートに発生したひび割れ調査（日本ビーエス）⑤鋼板が接合されたPC床版の診断（サンワコン）。

このうち、①では三谷生コン敦賀の上野重夫氏が、河川堤防の水路壁面に多数発生したひび割れの補修方法を提案。測定データ等を示しながら施工上の問題やコンクリートの収縮性について説明した。

このあと行われた意見交換では、各テーマの質疑応答が行われ、異業種の見地から想定される疑問点等を整理するなど会員の交流を深めていた。

石川会長はいさつの中で、「福井県内のコンクリート診断士登録者は現在53人で全国22

位、人口当たりだと全国4位になる」と現状を示したうえで、「これは、いち早く診断士会を立ち上げた結果。今後は、北

陸3県の診断士会とも情報交換を密にしていきたい」と述べ、情報の促進を会員に求めた。



コンクリート診断事例について意見交換した技術交流会